# 日本との比較で学ぶ台湾入門（８）
# 紙幣のデザインとその政治的意味について

台湾・東海大学政治学系教授　陳　建仁
大阪大学大学院法学研究科教授　北村　亘

## はじめに

本稿では、2025年４月のデータに基づいて、日本円（JPY）から台湾ドル（TWD）への買替レートを0.2に設定しています。また、「円」は日本円を指して、「元」は台湾ドルを指しています。

## 紙幣肖像画の政治学

**陳**：前回は政治に携わる人々の給料を日本と台湾で比較しましたが、この際、もう少し両国のお金の話を続けましょうか。ペーパーレス時代といっても、「お金」と聞いて思い浮かぶのはやはり「紙幣」のことですね。そういえば、日本は、新札発行に踏み切りましたよね。紙幣の肖像画が一新されて、１万円札といえばお馴染みだった「諭吉さん」にもサヨナラしましたね。

**北村**：日本では新札が発行されても、旧来のお札もそのまま額面通りの価値で使用できます。私の子供の頃の１万円札は、「福沢諭吉」ではなく「聖徳太子」でした。

**陳**：貨幣は、国家の主権を象徴的に表すものだと思います。カードやスマートフォンでの支払いもいいですが、なによりも日常生活に密着しているのはキャッシュレスの時代であっても紙幣や硬貨だと思います。貨幣のデザインは、往々にして国における建国の理念と国のあり方を反映します。今回は、日本と台湾の紙幣のデザインについてお話をしましょう。

**北村**：ええ、これまで少し小難しい話が多かったと言われていましたので、今回はちょっとお金の話をしていきましょう。いまはヨーロッパ連合（EU）を離脱しましたが、英国は加盟していたときであってもイングランド銀行券（スコットランドではスコットランド銀行券）を維持してユーロ（euro）を使っていませんでした。また、加盟国で使うユーロであっても、紙幣の印刷は加盟国の中央銀行で行っています。これも、貨幣が象徴的なものとはいえ、決して無視できない重みをもっていることを表しているからだと思います。お金は毎日使っているものですので、そのデザインに人々の生活や文化が無意識のうちに影響を受けているのではないかと思います。たとえば、価値観、国民意識、歴史認識、そして消費行動などです。過去に対する反省のみならず、未来への希望や願望も含まれているものです。

**陳**：日本と台湾の紙幣のデザインは、全く違うといつも感じています。日本のお札には、かならず肖像画があります。しかし、ほとんど政治家ではなく、文化人ばかりですよね。

**北村**：厳密には2000年に発行された2000円札以外は肖像画がありますよね。なかなか普及しませんでしたが、2000円札の表には沖縄の首里城守礼門、裏には源氏物語絵巻が描かれています。裏面右下隅に源氏物語の作者の紫式部の姿がほんの少しだけ描かれていますが、たぶん誰も気づいていないですし、そもそも財布に2000円札も入っていませんね（笑）。

**陳**：2000円といえば、ミレニアム（2000年）に開催された沖縄サミットを記念したものですね。確か、発行を決定した小渕恵三首相は気の毒にも「帰らぬ人」となってしまい、森喜朗首相の下でサミットは開催され、二千円札も発行されたのですよね。

**北村**：はい、そうです。当時は肖像画がない紙幣といって話題になりました。急遽発行が決まった

図８－１　二千円券
出典　日本銀行ウェブページ https://www.boj.or.jp/note_tfjgs/note/valid/issue.htm
（最終閲覧日2025年５月22日）

ために人物選定でもめることがないデザインになったと言われています。日本の紙幣は政治家を描いたものが少ないとおっしゃいますが、その傾向が強くなったのは伊藤博文と岩倉具視がそれぞれ1000円札と500円札から退場してからではないかと思います。政治家については評価が分かれてしまうので、紙幣の肖像画とするのにはやはり問題になってしまいます。伊藤博文は日本では初代内閣総理大臣であり、近代日本の建設者のひとりですが、他方で、日韓併合などを想起させてしまいます。文化人の場合、評価が分かれることは少ないですし、そもそも一般にあまり知られていないこともあります。新渡戸稲造のときに周囲で「誰だったっけ？」と瞬時に思い出せない人も多かったと言われています。まあ、ここには論争を回避して平和と文化に生きるという日本の決意があるのかもしれません（笑）。

**陳**：台湾では、政治家の肖像画を描いた日本の紙幣としては、伊藤博文の1000円札と板垣退助の100円札が有名です。伊藤博文は、初代内閣総理大臣を務め、「大日本帝国憲法」を事実上設計した人物です。特に台湾では、日清戦争の講和条約として1895年に締結された下関条約の日本側全権のひとりとしても知られ、台湾の日本への割譲に大きく関与しています。のちの台湾のあり方の規定したひとりともいえますね。

また、板垣退助は、かの「板垣死すとも自由は死せず」という名言が自由と民権の象徴的スローガンとして知られ、また日本最初の政党である自由党を結成した政治家です。1914年、77歳の高齢で、台湾を訪問して各地で講演を実施しました。その内容は、自由民権、国民教育、および憲政主義の重要性を強調し、台湾における教育と政治意識の向上を促したことによって、台湾の本土エリートに大きな思想的刺激を与えた。のちほどのあらゆる台湾本島の政治結社や社会団体、または日本帝国議会への台湾議会設置請願運動の思想的土台となったと考えられます。彼は台湾の歴史をも刻み込まれている自由民権運動家です。

**北村**：なるほど、いろいろな評価は可能だとは思いますが、伊藤と板垣が近代台湾に大きな影響を与えた、特に板垣が与えた影響というのが意外でした。なお、岩倉具視も明治維新の功労者ですし、さらに時代を遡れば聖徳太子も政治家といえるかもしれません。

**陳**：そういえば、昔からずっと疑問をもっていることは聞いてよろしいですか。聖徳太子は天皇ですか。

**北村**：いいえ。「太子」です。ただ、本当に実在したのかという点も含めて論争はあるようです。モデルに当たる王子はいたけれども太子ではなかった、いや太子は実在した、いやいや全く空想だ、などなどアカデミアのみならず歴史愛好家も含めての論争がありますね。とはいえ、聖徳太子の言葉と言われている「和を以て貴しとなす」などは、現代の日本人にも普通に受け入れられると思いますので、やはりお札の肖像画として支持される要素はあったと思います。肖像画を時代考証するとおかしな点が多々あったとしても、彼の唱えたと言われる思想は日本人の多くに共有されているように思われます。

日本の紙幣についてはこのような感じですが、

台湾ドルの紙幣の肖像画は、政治家以外の人物はどうですか。

**陳**：この話を触れるまえに、台湾ドルの３つの特徴を説明しなければなりません。第１の特徴として、台湾ドルは米ドルと同じ概念で、紙幣に描かれる人物が偉大であればそれだけ紙幣の額面の数字は小さくなる傾向があります。例えば、アメリカ合衆国の１ドル紙幣の肖像画は、アメリカ初代大統領であるジョージ・ワシントンです。その理由の１つとして、少額紙幣の場合、流通量が非常に多いため、国民にとって馴染みの深い人物が採用されていると言われています。

**北村**：そうですね。アメリカにおいては、大統領や有名人の「偉大さ」と、紙幣の額面が必ずしも比例していません。他方、日本は確かに額面の大きい人の重要度が高いと考えられますこともありますが、実際のところはよくわかりませんね。福沢諭吉は著名な思想家だと思いますが、新渡戸稲造や津田梅子と比較できるのかはよくわかりません。１万円札の聖徳太子と1000円札の伊藤博文なら、太子のほうが公爵の伊藤より上かもしれません。が、1000円札の伊藤博文と500円札の岩倉具視と比べるとやはり法則性はないように思えます。

**陳**：また、台湾における２つ目の特徴ですが、紙幣のデザインには矛盾に満ち溢れていると言えます。すでにこれまでに何度かお話しましたが、台湾の民主化は、暴力や流血を伴うものではなく、平和的かつ静かなる革命によって漸進的に推進されたものです。民主化以前からの既得権益を有する特権階層の粛清は行われていません。したがって、統治を担ってきた勢力と民主化を推進してきた勢力とでは特定の政治家に対して同じ評価なわけがないですよね。台湾の貨幣の肖像画になった政治家については、評価での対立と妥協が見て取れます。

現時点の台湾ドルのデザインを見てください。まさしく台湾におけるアイデンティティの衝突そのものが具現化したものとなっています。一見したところ､台湾の貨幣はワンセットと見えますが、実際、二つのデザイン、二つのイデオロギー、二つの価値観、二つの歴史認識、二つの文化が絡み合っています。

**北村**：私も台湾では日々使っていましたが、そんなことは考えたこともありませんでした。もう少し具体的に教えていただけますか。

**陳**:はい、たとえば、蒋介石に対する評価をめぐって、国民党支持者は、孫文の正統な後継者であり、共産主義から国家の存続を守護する指導者であり、「民族の救世主」と見なしていますし、蒋介石への個人崇拝が根強く残っています。その反対に、反国民党側は、彼が白色テロ時代の冤罪や虐殺の責任者であり、特定のイデオロギーに強制的に国民を洗脳したストロングマンあるいは独裁者として認識してきました。前者は｢孫文革命救国｣の延長線の視点で蒋介石を肯定し、後者は当然ながら自由民主主義体制を信奉していますから、独裁者で人権抑圧者である蒋介石を否定します。そのために、台湾では民主化からすでに35年以上過ぎたにもかかわらず、蒋介石の肖像を貨幣に残すべきかどうかということが、いまなお大きく燃え上がる論争のままです。その論争に鎮火の様子は見えません。民主化の無血革命は誇るべきこともありますが、歴史認識においては「静かなる革命」の代価をいまなお払っている言えるでしょう。

**北村**：政治と結びついてなかなか生々しい話ですね。

**陳**：そして、第３の特徴は、見たことのない貨幣があるということです。台湾では、1000元、500元、100元の紙幣と、50元、10元、５元、１元の硬貨がよく流通していますが､それ以外に、実験的に2000元と200元の紙幣と20元の硬貨が流通しているのです。

**北村**：え、ちょっと驚きました。欧米の貨幣では２の単位の貨幣がかなり流通しています。が、台湾ではあまり見たことがありません。

**陳**：中華民国の「偉人」枠として孫文と蒋介石はいまも貨幣には引き続き使われています。孫文は100元、蒋介石は200元という低額紙幣にそれぞれ肖像画が出ています。さらに、孫文は50元、

図８－２　台湾ドル硬貨における孫文と蒋介石以外の有名人
出典：中央銀行券幣数位博物館、『新臺幣硬幣』、https://museum.cbc.gov.tw/collection/info/5/30/94（2025年５月10日閲覧）

蒋介石は10元、５元、１元のコインに残っています。ちなみに、流通量はとても低いですが、20元硬貨のモーナ・ルダオ（抗日の台湾原住民リーダー）、10元記念硬貨には蒋経国（蒋介石の長男で三番目の総統）と蒋渭水（反植民地と台湾民族自決運動家）があります。

**北村**：たしかに、台湾ドル硬貨で、彼らの肖像画をあまり見かけないですね。

**陳**：なお、500元、1000元、2000元の高額紙幣は、蒋介石の姿の痕跡が消えました。

**北村**：政治的対立が激しい台湾では、500元、1000元、2000元は、孫文や蒋介石の肖像画が載っている100元と200元とは別のグループになっているのが興味深いですね。

**陳**：そういえば、私は、子供の頃から、ずっと日本の紙幣が清潔で綺麗な印象があります。最初は、財布などのお金使いの違いではないかと思いましたが、最近はその原因の一つとして、古くなった紙幣の回収が早いということに気付きました。多くの国では、旧札が数十年間にわたって並行使用されることがありますが、それに比べると、日本の紙幣は、デザインはそのままですが、市中で古くなった紙幣の回収スピードが非常に速いと評価されることが多いです。

**北村**：日本銀行は「鑑査」というチェックを通じて旧札を回収し、新札と順次入れ替えています。日本紙幣の寿命は、1000円札や5000円札は平均で１～２年ほど、１万円札は４～５年ほど持つとされています。このようにして、おおよそ数年かけて、古い紙幣は自然に新しい紙幣へと置き換わっていく仕組みになっています[1]。

なお、E号券の発行経験を振り返ると、2004年11月から新札の流通が始まりましたが、翌年2005年の10月時点で１万円札の切り替え率は59.5%になっています[2]。日本の紙幣の交換は、本当に早いです。これが「きれいなお札」の秘密ではないかと思います。

## 日本の紙幣における政治的考慮

**北村**：日本の紙幣について、肖像をはじめとするお札の様式は、通貨行政を担当している財務省、発行元の日本銀行、製造元の国立印刷局の三者で協議し、最終的には『日本銀行法』によって財務大臣が決めることになっています。お札の肖像の選び方には、法令等の制約はありませんが、国立印刷局によれば、①偽造防止の観点から、なるべく精密な写真を入手できること、②肖像彫刻の観点からみて、品格のある紙幣にふさわしい肖像であること、③肖像の人物が国民各層に広く知られており、その業績が広く認められていること、などが考慮されるということです[3]。

1　国立印刷局、『お札に関するよくあるご質問』、https://www.npb.go.jp/product_service/intro/faq.html?utm_source=chatgpt.com（2025年５月10日閲覧）
2　日本銀行発券局、2005、『新しい日本銀行券の普及状況～改刷から１年を経て』、https://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2005/data/ron0511a.pdf（2025年５月10日閲覧）

**陳**：そういえば、国立印刷局は、もう行政機関から切り離され「独立行政法人」になりました。なぜ、一国の銀行券の製造機関は、わざわざ法人化したのですか。

**北村**：はい、国立印刷局の正式な名称は、独立行政法人国立印刷局です。最初は、1871年、大蔵省の一部門として誕生した紙幣司（後に紙幣寮と改称）であり、あの渋沢栄一は初代紙幣頭でした。2003年に法人化されましたが、職員については独立行政法人の中でも特殊な「行政執行法人（７法人）」のひとつでもありますので、職員の身分は国家公務員となっています（2025年１月時点で常勤職員数4056名）。本局以外に全国に６工場をもち、紙幣、切手、パスポート、官報や白書などの政府刊行物の印刷などを行っています。大学入試問題の印刷もここで行われる場合もあります。

1990年代の行政改革の中で、公務員数の削減が政治的テーマになりました。与野党ともに有権者の歓心と票を得るために削減規模を競い合うことになってしまいました。やむなく辻褄をあわせるために研究機関や実施部門の多くが行政から切り離されて、英国のエージェンシー(executive agencies) を真似た「独立行政法人」とされたのです。ただ、印刷局については特殊な性格であり、多くの独立行政法人の職員が公務員の身分を持たない中で、印刷局の職員は国家公務員の身分を有しています。というわけで、何か必要性があって法人化したわけではありません。

なお、省庁再編や法人化の中で、お札の発行主体の表記が異なるものがあります。2001年までの１万円札には「大蔵省印刷局」と書いてあるのですが、2001年の省庁再編から2003年の法人化までは「財務省印刷局」と書いてあり、そしてそれ以後のお札には「国立印刷局」と書いてあります。チェックしてみてください。

**陳**：そうなんですか。福沢諭吉の１万円札の発行主体をチェックしておきます。ところで、今回の新しい１万円の肖像画は、なぜ渋沢栄一が選ばれたのですか。そもそも、私の印象ですが、かつての１万円札を見たとき、聖徳太子は憲法十七条による古代国家の大きな転換点を意味し、また福沢諭吉は明治維新の理論的支柱を提供したということを意味しているように思えますが、先生はどう思われますか。

**北村**：そうなのでしょうか。ちょっと旧１万円札については何とも言えないですねえ。

昨年発行される紙幣は、Ｆ号券とも呼ばれます。新しい１万円券の表面には、生涯に約500もの企業の設立などに関わったといわれ、実業界で活躍した渋沢栄一です。裏面には、「赤レンガ駅舎」として親しまれた歴史的建造物の東京駅が描かれています。

渋沢栄一が選ばれた理由は、よくわかりません。が、日本の近代化の中で資本主義の制度の整備のみならず多くの企業設立にも関わり、「日本の資

図８－３　Ｆ １万円券（2024年発行）

出典：国立印刷局、『お札の基本情報』、https://www.npb.go.jp/product_service/intro/kihon.html#cmsgenzai01（2025年５月10日閲覧）

3　国立印刷局、『お札に関するよくあるご質問』、https://www.npb.go.jp/product_service/intro/faq.html?utm_source=chatgpt.com（2025年５月10日閲覧）

図８－４　Ｆ　5000円券（2024年発行）
出典：国立印刷局、『お札の基本情報』、https://www.npb.go.jp/product_service/intro/kihon.html#cmsgenzai01（2025年５月10日閲覧）

本主義の父」とも呼ばれることや、精密な写真が残っていたこと、そして、偽造防止のためにひげのある肖像画がかつては好まれていたといいますが、現在ではそれを上回る高度な偽造防止技術があるのでひげがなくても大丈夫なったことなどがあると言われています。

**陳**：文明の啓蒙する福沢から、経済成長と倫理の両立を目指す渋沢への転換を意味するかもしれません。

**北村**：やや穿ちすぎる見方ですね（笑）。

**北村**：新しい5000円券はどう思われますか。

**陳**：津田梅子は、日本の紙幣に登場した女性としては、神功皇后、紫式部、樋口一葉に続いて４人目ですね。日本は、紙幣でも近年ジェンダー平等をアピールしようとしているように思えます。

**北村**：そういう配慮は当然あったのではないかと思います。新しい1000円券はどうですか。

**陳**：文学者が外れてしまったのですね。よくよく2024年発行の１万円札、5000円札、1000円札は、それぞれ実業家、教育者、および医学者ですね。今回は、作家が除外されました。近年の人文系軽視の風潮でしょうか。余談ですが、戦後の紙幣の人物のうち、東京大学の関係者はほとんどいませんね。

**北村**：え！夏目漱石や新渡戸稲造をどう考えるのかは議論があるでしょうが、近年、政治家の肖像画を使わないということが暗黙の了解になっている以上、東京大学出身者が出てくることは少ないのかもしれません。いずれにしても出身大学それ自体にあまり意味はないと思います。

## 台湾の紙幣における政治的考慮

**陳**：台湾ドルの正式名称は「新台幣」（New Taiwan Dollar）、1949年に発行されました。紆余曲折を経て、台湾ドルは地域通貨の地位から「中華民国法定通貨」の地位まで登りつめ、2000年の時、ようやく紙幣にも台湾銀行ではなく「中央銀行」と印刷されています。いま流通している紙幣は、すべて21世紀に入ってからデザインされ発行されたものです。台湾ドルの紙幣は、中央銀行の傘下にある中央印製廠で印刷発行されています。『中央銀行法』の第15条の２によれば、「本行（中央銀行）が発行する紙幣および硬貨の額面、

図８－５　Ｆ　1000円券（2024年発行）
出典：国立印刷局、『お札の基本情報』、https://www.npb.go.jp/product_service/intro/kihon.html#cmsgenzai01（2025年５月10日閲覧）

図８－６　安一版百元券（2001年発行）
出典：中央銀行券幣数位博物館、『新臺幣鈔券』、https://museum.cbc.gov.tw/collection/list/5/27（2025年５月10日閲覧）

成分、形式および図柄は、本行がこれを策定し、行政院の認可を受けなければならない」とあります。つまり、紙幣のデザインは行政院の許可が必要です。

**北村**：台湾にとっての貨幣の政治的意味は重そうですね。

**陳**：貨幣は、国家の経済的・政治的な主権を体現しています。貨幣の発行権や貨幣流通の強制力といった通貨主権は、国家主権の核心部分であり、各国政府は経済政策を通じて国家の政治的安定を図ります。台湾ドルも、台湾の主権をアピールするために重要な役割を演じています。つまり、台湾の貨幣は､単なる交換手段や価値の尺度を超え、台湾の「国家主権の象徴」という考え方と密接に結びついています。そのために、台湾は、中華民国の国花、国章、中華民国年号などが紙幣に記載しています。

**北村**：なるほど、世界に貨幣を通じて台湾、ひいては中華民国をアピールするという感じですね。

**陳**：現在、台湾で使われている紙幣は､「第五套横式新臺幣（鈔券版)」と呼ばれ、台湾中央銀行が2000年から発行しているものです。前に言う通り、100元券（約500円）は、表面には、孫文の肖像画であり、裏面は以前にもお話した国民大会の議場にも使われていた陽明山の中山楼です。ご存じの通り、孫文は中華民国の「建国の父」であり、彼の「三民主義」が中華民国憲法と政治システムの根幹となっていると同時に、彼は国民党の象徴的存在と言えます。

とはいえ、1990年代以降、孫文は100元券の肖像画として果たしてふさわしいのかどうかということが議論されています。昔、権威主義統治時代の台湾では、大学入試において「三民主義」という科目が別途設けられており、孫文と蒋介石の主張を「天啓の真理」として一字一句暗記させられ､彼らを崇拝の対象として扱われてきたのです。民主化以降、当然ならが個人崇拝的な要請には反発も大きくなり、お札の孫文にも多くの国民の疑念の目が向くようになりました。そもそも、台湾意識の高まりの中で、孫文は「中華民国の国父」であったとしても、はたして「台湾の国父」と言えるのかという根本的な問題も提起されるようになっています。。

**北村**：確かに、孫文といえば中華民国かもしれませんが、台湾とのつながりがどうなのかと言われると難しいようにも思えますね。しかし、これは日本人の私には何とも言い難いところがあります。

図８－７　安一版百元券（2002年発行）
出典：中央銀行券幣数位博物館、『新臺幣鈔券』、https://museum.cbc.gov.tw/collection/list/5/27（2025年５月10日閲覧）

図８－８　安二版五百元券（2005年発行）
出典：中央銀行券幣数位博物館、『新臺幣鈔券』、https://museum.cbc.gov.tw/collection/list/5/27（2025年５月10日閲覧）

**陳**：200元券（約1000円）の肖像画は、さらに賛否両論がある蒋介石です。その裏面は、総統府ですね。しかし、よくよく考えると、総統府は日本統治時代の台湾総督府でもあります。

**北村**：率直に言って日本人としては日本統治の象徴ともいえる総統府が描かれたお札を普通の台湾の人々がどのように思っておられるのかということには興味をもってしまいます。そして、たしかに、孫文の100元券と蒋介石の200元券はワンセットに見えてきますね。

**陳**：500元券（約2500円）は、表面にユース野球チームであり、裏面に大覇尖山（3,492m）とタイワンジカ（台湾梅花鹿）が描かれています。世界中の野球は、アメリカを中心に日本、メキシコ、中南米、台湾、韓国などに拡散します。台湾は日本の影響を受け、野球を「国球」と呼ぶようになっています。500元券のデザインは、台湾のスポーツ文化と環境保全の象徴とも言えます。

**北村**：すみません、これは驚きなのですが・・・「国球」であったとしても野球チームが台湾の紙幣に出てくるとは・・・いくら台湾の人々が野球をとても好きだとしても、驚きです。

**陳**：1000元券（約5000円）は、表面に初等教育のイメージ図であり、裏面に台湾最高峰である玉山（3,952m）とミカドキジ（帝雉）があります。1000元券は、表面に肖像に４人の児童が色鮮やかに描かれていることから、台湾ではよく「４人の子供（４個小朋友）」と冗談めかして呼ばれています。しかし実際によく見ると、６人の子供が描かれています。ところで、1999年に発行された最初のバージョンの1000元券には、７人の子供が描かれていました。1000元券は、台湾の教育立国と環境教育をアピールしています。

**北村**：６人の子供ですか。探してみます。あ、わかりました（笑）。ひとりがわかりにくいです。

**陳**：そして、幻の2000元券です。日本円に換算すれば、１万円に値します。23年前に発行された時、大金ですので、多くの店では引き受けてくれませんでした。結局のところ、2000元券は死蔵されることになってしまいました。2000元券の表面には、パラボラアンテナと人工衛星であり、裏面には南湖大山（3,742m）とタイワンマス（櫻花鉤吻鮭）が描かれています。言うまでもなく、2000元券は台湾が科技立国と環境回復を目指すことを宣言です。実際に、半世紀にわたる台湾での科学技術産業と半導体産業の目覚ましい発展により、中華民国の英語の略称の「R.O.C」は、しばしば“Republic of Computer”と言われたり

図８－９　安二版千元券（2005年発行）
出典：中央銀行券幣数位博物館、『新臺幣鈔券』、https://museum.cbc.gov.tw/collection/list/5/27（2025年５月10日閲覧）

図８－10　安一版二千元券（2002年発行）
出典：中央銀行券幣数位博物館、『新臺幣鈔券』、https://museum.cbc.gov.tw/collection/list/5/27（2025年５月10日閲覧）

もするぐらいです。

**北村**：タイワンマスは絶滅寸前だったと聞いていますが、いまは回復していると伺い、官民あげて努力されたのだなと思っていました。

**陳**：実は、500元、1000元、及び2000元券この３枚の紙幣は、やはりワンセットと理解してもらっていいと思います。500元券に描かれているタイワンジカは、標高500メートル以下の地域に生息しています。1000元券のミカドキジは、主に標高1,000メートル以上の山岳地帯に棲息しています。そして、2000元券のサクラマスは、標高2,000メートル付近に生息し、水温や環境に厳しい条件が整わなければ生きることができません。

**北村**：孫文と蒋介石の政治的なワンセットの次は、自然環境のワンセットなのですね。興味深いです。

**陳**：番外編として、特殊な紙幣を紹介します。それは、ポリマー紙幣です。プラスチック紙幣とも呼ばれます。台湾中央銀行は、2002年、新台湾ドル50周年記念として五十元紙幣をポリマー紙幣で発行しました。表面には、1949年最初の紙幣に絵がれていた孫文肖像画とその後の変化、裏面は中央銀行ビルです。ほとんど市場で見つからないレアな紙幣です。

**北村**：英語本来の意味とは異なりますが、プラスティック･マネーですね。それにしても、台湾は、流通していない紙幣が多いです。

**陳**：以上、台湾の紙幣の現状です。とはいえ、時間とともに、いつか台湾も日本のように紙幣がワンセットになるでしょう。

図８－11　安一版二千元券（2002年発行）
出典：中央銀行券幣数位博物館、『新臺幣紀念性流通鈔券』、https://museum.cbc.gov.tw/collection/list/5/28（2025年５月10日閲覧）